一般質問

一般質問は12月16日に行われました。質問には、田上更生議員、甲斐廣國議員、後藤和昭議員が立ち、大型養鶏場食鳥処理工場建設や、町長の今後の施政方針、2期8年間における行財政運営の効果について藤本町長の考えを質しました。

◎どうなっている食鳥処理工場建設の現状は

田上更生議員

質 これまでの経過は

大型養鶏場食鳥処理工場の建設が計画され3年になるが、現在までの経過は。

町長答 町内に建設することで進めている

野尻、草部地域での工場建設を進めていたが、電気をはじめ、水等の問題が大きく断念された。町内に建設することを第一に考え進めている。

▲平成22年から出荷が始まったモデル農場（大字尾下地内）

質 養鶏場は工場建設決定後に進めるべきでは

計画では本年12月工事着工であったが、まだ場所の決定もなされていない中、養鶏場の建設だけは次々に計画されている。モデル農場2カ所以外については、工場建設決定後に進めるべきではないかと思うが。

町長答 誓約書、覚書も交わされている

本町に工場を建設することは、企業の会長と誓約書、覚え書きが交わされており約束は守ってもらえるものと思っている。もし工場が本町にできないということになれば、モデル農場は完全に処分してもらわなければならない。

産業振興課長答

現在工場用地については、大きなエリアを決めて、許認可など法的なものがクリアできる場所を探している。また、農場については、現在野尻の永野地区で説明会を開いているが、処理工場の建設が進まなければ、新たな農場建設の話は無理であると会社には伝えてあり、担当としても1日も早い工場設置場所の選定を進めている

質 突然こんにゃくいも栽培が浮上したが

野尻、草部地域への食鳥処理工場の建設断念に伴い、農業の振興策を図るとしていたが、どのような振興策があるか協議中に突然こんにゃくいもの栽培になったが。

町長答 パイロット事業として位置付けたい

昔から野尻、草部においては、こんにゃくが栽培されており、経験があり荒廃地や放棄地をなくすのには一番いい作物ではないかと思い県にもお願いし調査したところ、全量買い上げていただける会社があり、町のパイロット事業と位置付け取り組むこととした。

質 パイロット事業としては疑問がある

全国シェア90％を占める群馬県へ視察研修に行ったが、群馬県でも高齢化により重量物は扱えないということで栽培面積も6、000haあったものが、3、200haまで減少している。また、栽培環境に収量が大きく左右されること、新たにTPPの関税問題が取りざたされパイロット事業として疑問に思うが。

町長答 3年間試作後に判断したい

一般公募に11名の応募があり、この方々に3年間試作していただき判断したい。また、今年から取り組んでいる白ネギについても農協と協議しながら進めていきたい。